

2026年10月期 第3四半期 IRミーティング資料

2026/9/30

2026年10月期 第3四半期実績 | サマリー

第3四半期 実績

(単位：億円)

	2025 /3Q 実績	2026 /3Q 実績	前年 同期比	増減率
売上高	1,345	1,414	+69	+5%
農薬及び農業関連	1,081	1,119	+38	+3%
化成品	188	225	+37	+20%
その他	75	70	▲5	▲7%
営業利益	104	76	▲28	▲27%
経常利益	116	122	+6	+6%
親会社株主に帰属する四 半期純利益	90	57	▲33	▲37%

参考：平均レート ¥/ドル=149 ¥/ドル=158

通期 業績予想

(単位：億円)

	2026予想 A	2025実績 B	2026修正予想 C	前回予想比 C-A	増減率 (C-A)/A	前期比 C-B	増減率 (C-B)/B
売上高	1,620	1,705	1,750	+130	+8%	+45	+3%
農薬及び農業関連	1,270	1,357	1,370	+100	+8%	+13	+1%
化成品	261	251	290	+29	+11%	+39	+16%
その他	90	97	90	+0	+1%	▲7	▲7%
営業利益	72	106	27	▲45	▲63%	▲79	▲75%
経常利益	109	134	85	▲24	▲22%	▲49	▲37%
親会社株主に帰属する 当期純利益	64	44	40	▲24	▲38%	▲4	▲9%

参考：平均レート ¥/ドル=150 ¥/ドル=149 ¥/ドル=155

第3四半期実績

- 売上高は、農薬及び農業関連事業および化成品事業が前年を上回る
- 営業利益は、「アクシーブ」のジェネリック参入による市場価格低下に伴い棚卸資産評価損を計上し減少
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、化成品事業における固定資産の減損損失および構造改革費用等の計上により減少

通期業績予想

- 売上高は、農薬及び農業関連事業および化成品事業の販売増加により前回予想比、前期比ともに増加
- 営業利益は、「アクシーブ」ジェネリック参入による市場価格低下に伴い棚卸資産評価損を計上し、前回予想比、前期比ともに減少
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、化成品事業における減損損失および構造改革費用の計上等により前回予想比で減少
前期比では持分法による投資利益、為替差損益等により減少幅が縮小

(単位：億円)

	2025 /3Q 実績	2026 /3Q 実績	前年同期比	増減率
売上高	1,345	1,414	+ 69	+ 5%
売上総利益	278	255	▲ 23	▲ 8%
営業利益	104	76	▲ 28	▲ 27%
経常利益	116	122	+ 6	+ 6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	90	57	▲ 33	▲ 37%

参考：平均レート ¥/ドル=149 ¥/ドル=158

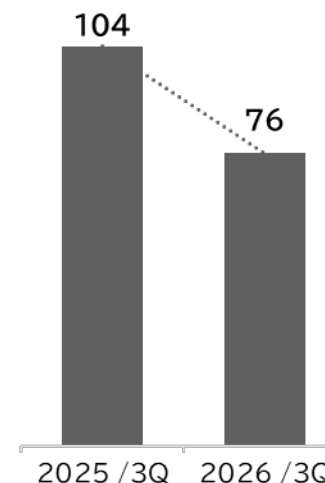
売上高



前年同期比 **+69** 億円

- (+) 農薬及び農業関連事業、化成品事業が増加
- (+) 国内向け農薬 +33億円
- (+) ビスマレイミド類を含む精密化学品 +21億円

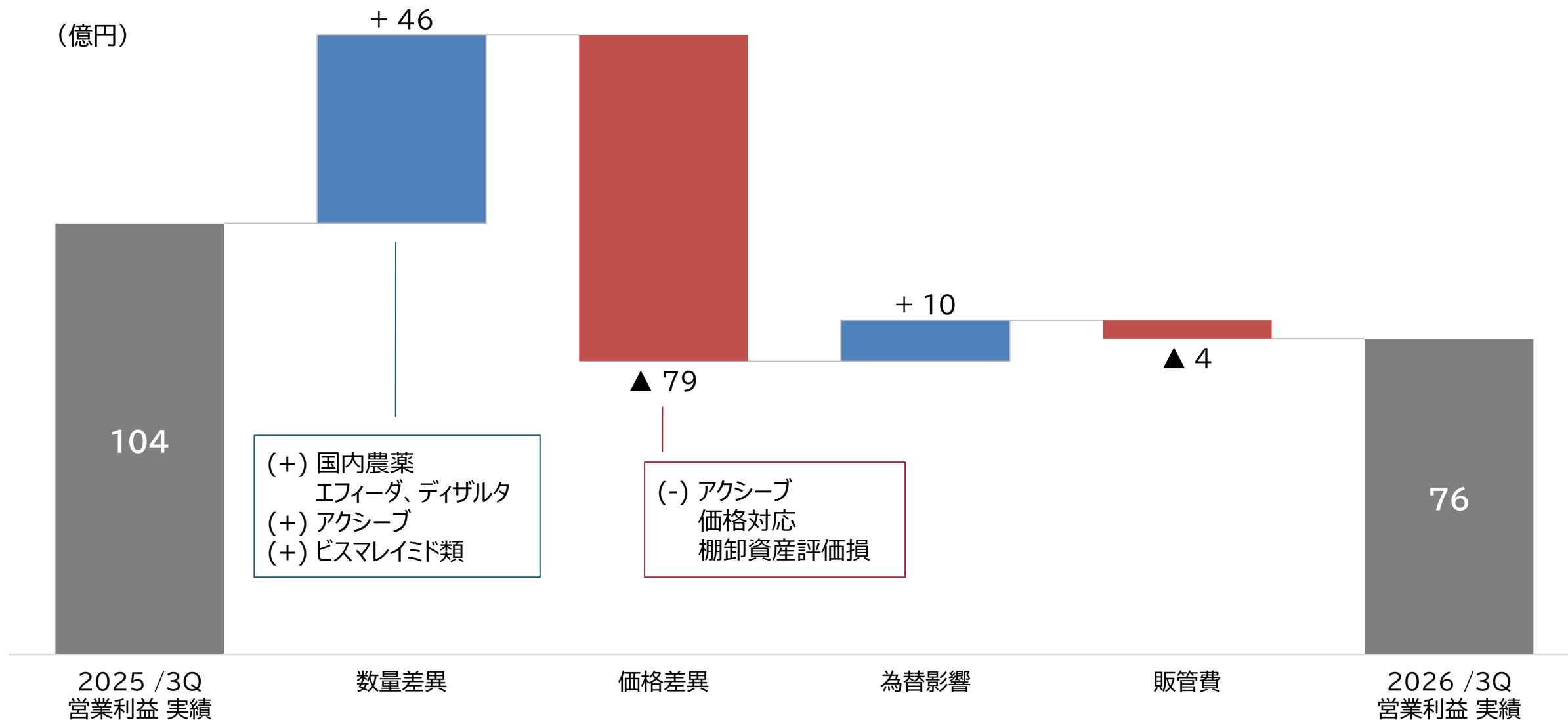
営業利益



前年同期比 **▲28** 億円

- (-) アクシーブのジェネリック参入による
市場価格低下に伴い棚卸資産評価損を計上
- (+) 化成品事業の増益

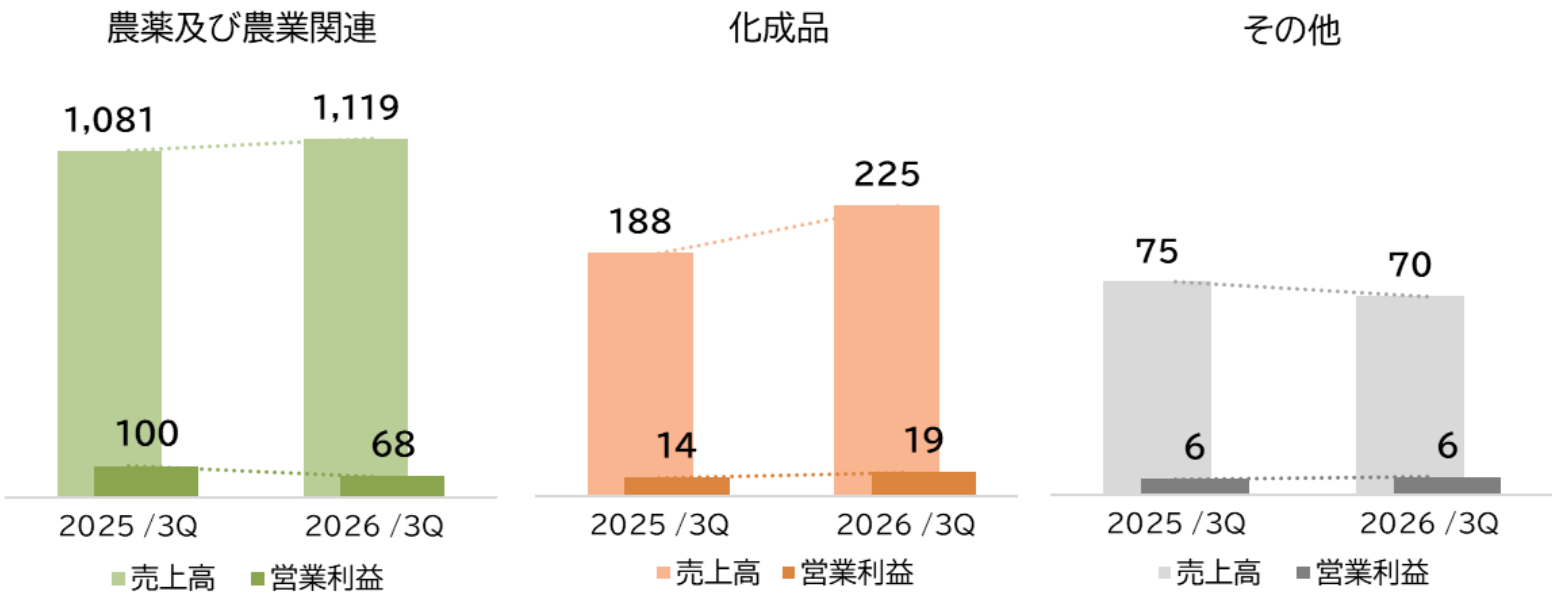
2026年10月期 第3四半期実績 | 営業減益の要因



2026年10月期 第3四半期実績 | セグメント別

(単位：億円)

	2025 /3Q 実績	2026 /3Q 実績	前年同期比	増減率
売上高	1,345	1,414	+69	+5%
農薬及び農業関連	1,081	1,119	+38	+3%
化成品	188	225	+37	+20%
その他	75	70	▲5	▲7%
営業利益	104	76	▲28	▲27%
農薬及び農業関連	100	68	▲32	▲32%
化成品	14	19	+4	+31%
その他	6	6	+1	+14%
(調整額)	▲16	▲17	▲1	-

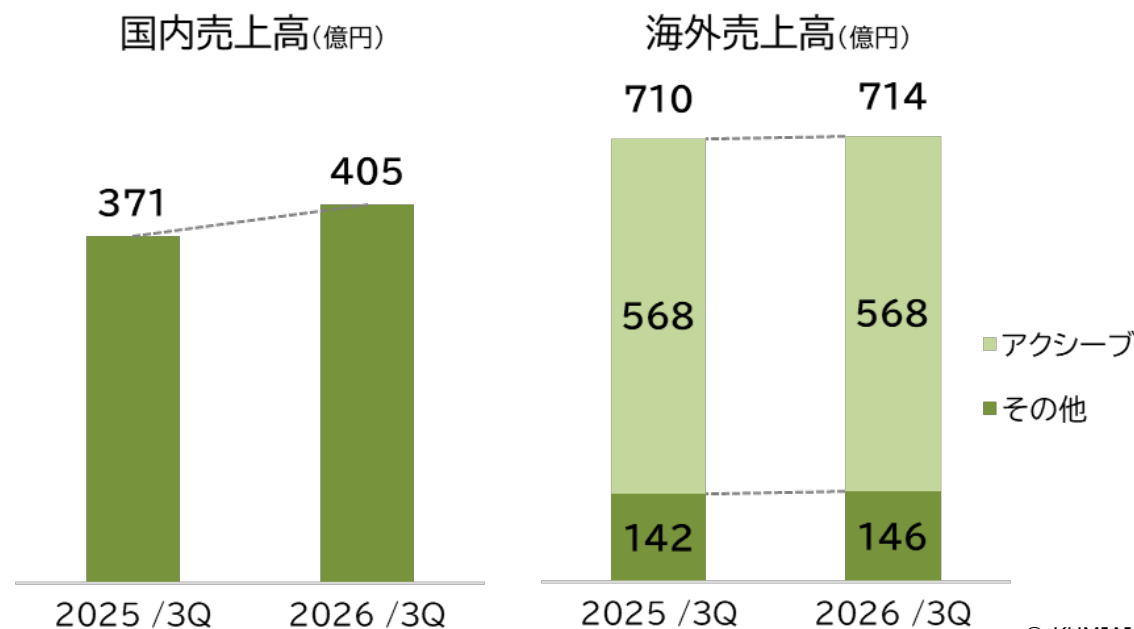


国内

- 除草剤「エフィーダ」を含む水稻用除草剤、「ディザルタ」を含む水稻用箱処理剤が好調
- 近年のカメムシ類の発生増加による殺虫剤の需要増

海外

- 除草剤「アクシーブ」のオーストラリア、アルゼンチン向け出荷が減少も、米国向け出荷が販促支援の強化により増加





米国

当第3四半期 売上高：456億円（前年同期比+67億円）

- 販促支援の強化により前年比出荷増
- ジェネリック品の流通による市場価格の低下に伴い、収益性が悪化
- 第4四半期以降も出荷を見込むも、さらなる価格低下を想定



オーストラリア・アルゼンチン



当第3四半期 売上高

オーストラリア：出荷なし（前年同期比▲49億円） アルゼンチン：35億円（前年同期比▲21億円）

- ジェネリック品との競合が激化
- 第4四半期に出荷が見込まれるものの、価格対応により収益性が低下
- 特許侵害品に対する法対応は継続して実施



ブラジル

当第3四半期 売上高：66億円（前年同期比+2億円）

- 出荷が進んだことにより前年同期比で増収、第4四半期にも出荷を見込む
- 供給過剰による競合剤の低価格化や金利高によるクレジットリスクを背景に、市場環境は依然として厳しいが、販促支援を強化することで出荷促進を図る

精密化学品

- 半導体関連電子材料の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷が顕著に増加

塩素化

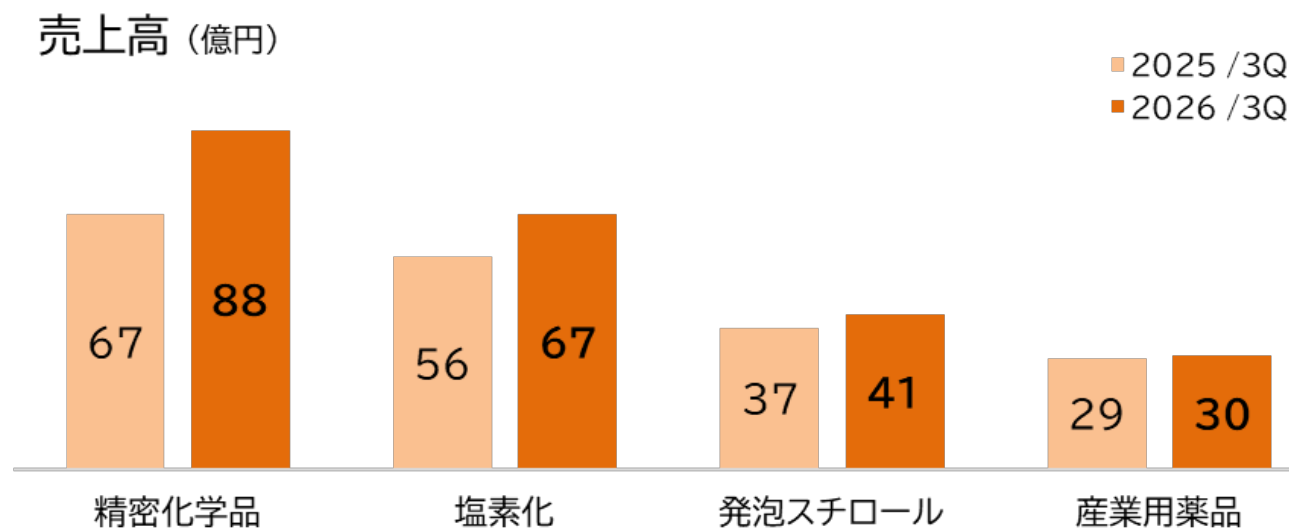
- クロロキシレン系製品の出荷増により前年対比増収するも、事業環境は依然として厳しい

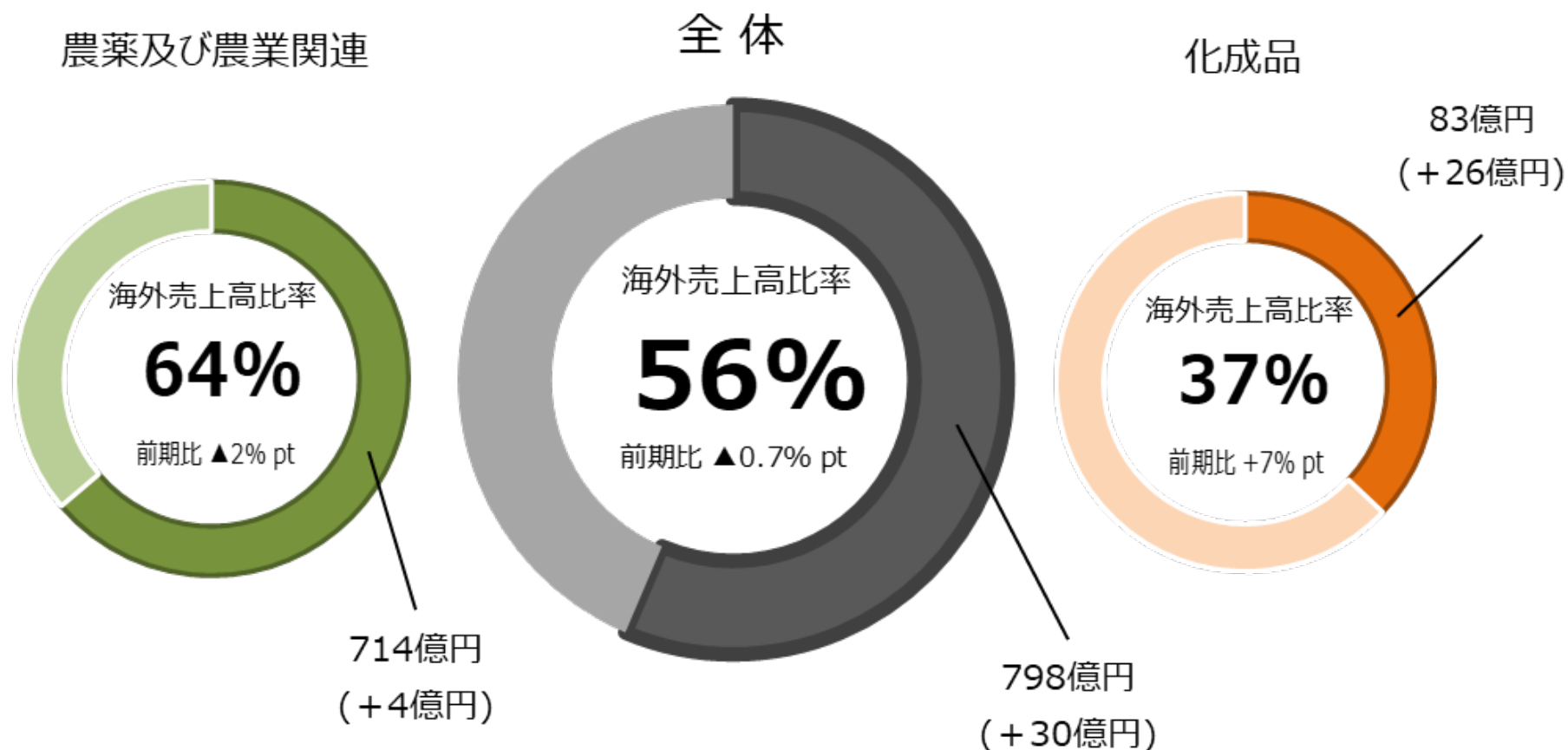
発泡スチロール

- 微増収

産業用薬品

- 前年並み





2026年10月期 第3四半期実績 総括

事業全体

四半期純利益※：親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高	1,414 億円(前年同期比 +69 億円)	■ 売上高は農薬及び農業関連事業、化成品事業が前年を上回る
営業利益	76 億円(前年同期比 ▲28 億円)	■ 営業利益は「アクシーブ」のジェネリック参入による市場価格低下に伴い棚卸資産評価損を計上し減少
経常利益	122 億円(前年同期比 +6 億円)	■ 経常利益は為替差損益が前年同期比+25億円、持分法による投資利益が前年同期比+12億円となり増加
四半期純利益※	57 億円(前年同期比 ▲33 億円)	■ 四半期純利益は化成品事業における固定資産の減損損失および構造改革費用等の計上により減少

農薬及び農業関連事業

売上高	1,119 億円(前年同期比 +38 億円)	■ 国内向けは除草剤「エフィーダ」を含む水稻用除草剤、殺菌剤「ディザルタ」を含む水稻用箱処理剤が好調
営業利益	68 億円(前年同期比 ▲32 億円)	■ 海外向けは除草剤「アクシーブ」のオーストラリア、アルゼンチン向け出荷が減少も、米国向け出荷が販促支援の強化により増加
		■ 営業利益は「アクシーブ」のジェネリック参入による市場価格低下に伴い棚卸資産評価損を計上し減少

化成品事業

売上高	225 億円(前年同期比 +37 億円)	■ 半導体関連電子材料の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷が顕著に増加
営業利益	19 億円(前年同期比 +4 億円)	■ 一部のクロロキシレン系化学品の出荷増

その他事業

売上高	70 億円(前年同期比 ▲5 億円)	■ 売上高は建設業において前年同期に複数の大型工事が完成したことなどから減少
営業利益	6 億円(前年同期比 +1 億円)	

2026年10月期 業績予想 | 前回予想比

(単位：億円)

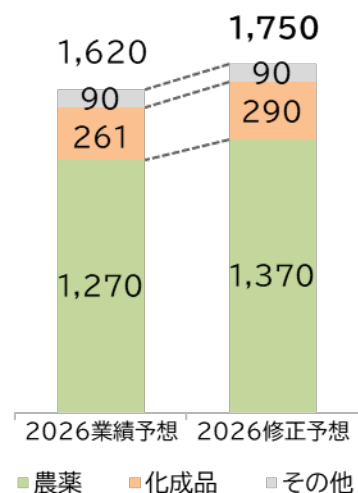
	2026業績予想 (12/12公表)	2026修正予想	前回予想比	増減率
売上高	1,620	1,750	+130	+8%
農薬及び農業関連	1,270	1,370	+100	+8%
化成品	261	290	+29	+11%
その他	90	90	+0	+1%
営業利益	72	27	▲45	▲63%
経常利益	109	85	▲24	▲22%
親会社株主に帰属する当期純利益	64	40	▲24	▲38%

参考：平均レート

¥/ドル = 150

¥/ドル = 155

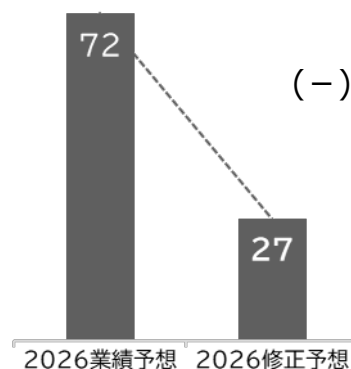
売上高



前回予想比 **+130** 億円

(+) 農薬及び農業関連事業、
化成品事業の販売が増加

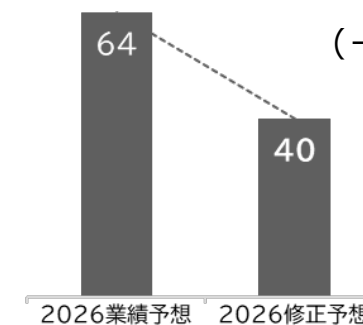
営業利益



前回予想比 **▲45** 億円

(-) アクシーブのジェネリック品
参入による市場価格低下に伴い
棚卸資産評価損を計上

当期純利益

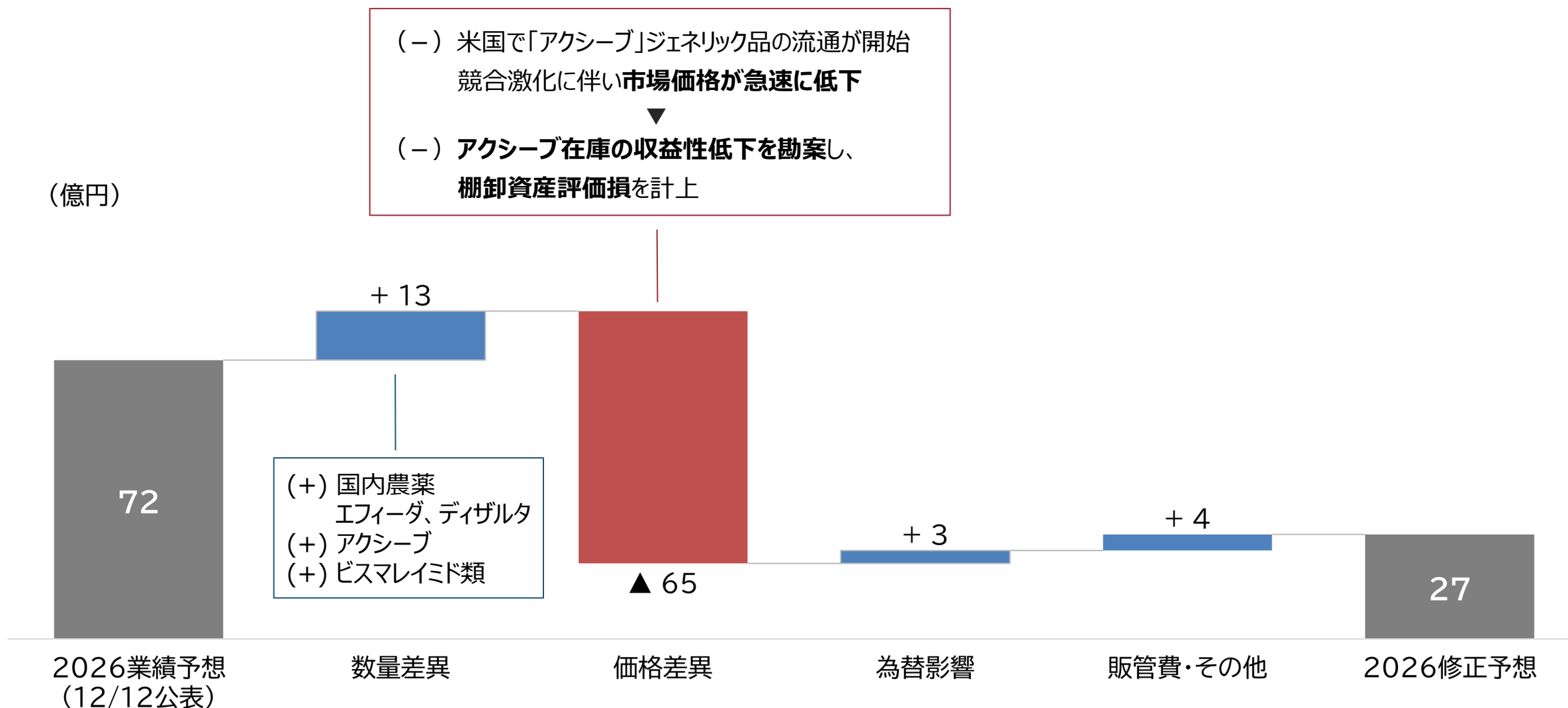


前回予想比 **▲24** 億円

(-) 化成品事業における減損損失
および構造改革費用を計上

2026年10月期 業績予想 | 対前回予想 営業利益増減要因

(億円)



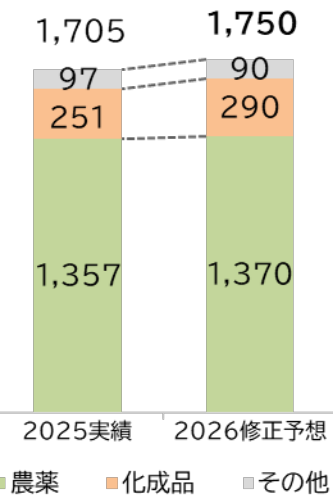
2026年10月期 業績予想 | 前期比

(単位：億円)

	2025実績	2026修正予想	前期比	増減率
売上高	1,705	1,750	+45	+3%
農薬及び農業関連	1,357	1,370	+13	+1%
化成品	251	290	+39	+16%
その他	97	90	▲7	▲7%
営業利益	106	27	▲79	▲75%
経常利益	134	85	▲49	▲37%
親会社株主に帰属する当期純利益	44	40	▲4	▲9%

参考：平均レート ¥/ドル = 149 ¥/ドル = 155

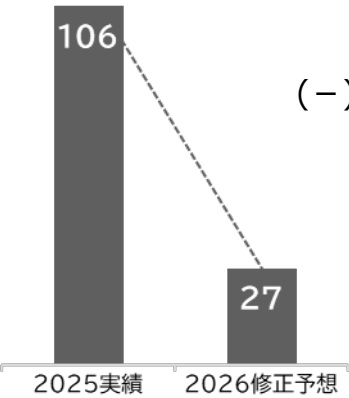
売上高



前期比 **+45 億円**

(+) 国内向け農薬および
化成品事業の販売が増加
アクシーブは横ばい

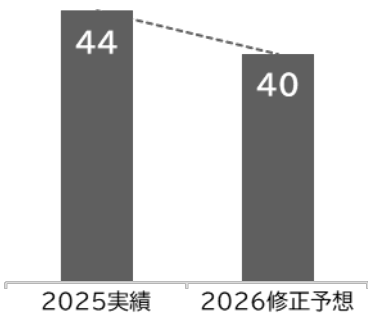
営業利益



前期比 **▲79 億円**

(-) アクシーブのジェネリック参入
による市場価格低下に伴い
棚卸資産評価損を計上

当期純利益



前期比 **▲4 億円**

(+) 持分法による投資利益
(+) 為替差損益

研究開発費

2025年度実績 **71** 億円

2026年度見込 **75** 億円

(主な内容) 海外開発への取り組み強化、最先端技術の活用による研究推進

設備投資

2025年度実績 **70** 億円

2026年度見込 **60** 億円

(主な内容) 生産、研究設備の更新

減価償却費

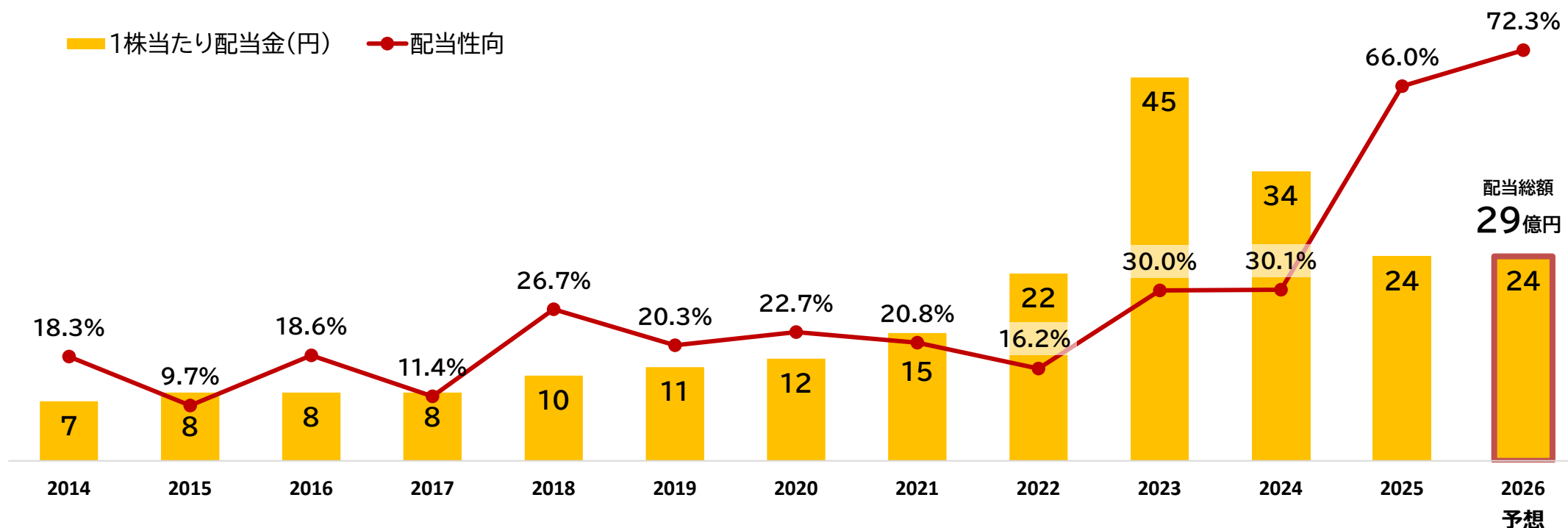
2025年度実績 **57** 億円

2026年度見込 **53** 億円

配当性向30%以上を目標

2026年度 配当予想

中間配当10円+期末配当14円=年間配当24円（配当性向 72.3%）



農薬および半導体関連分野での成長＋グループ経営のシナジー強化 を両輪で推進

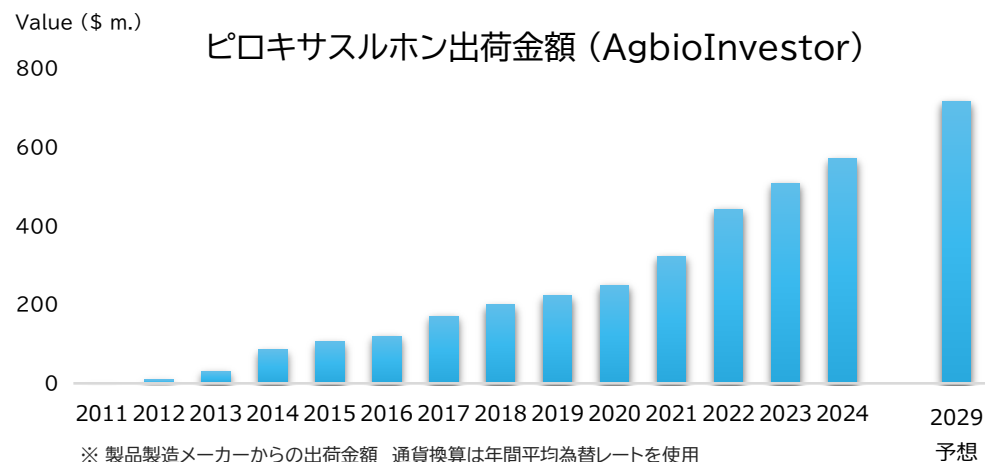
成長戦略

- アクシーブ「ビジネスモデルの再構築」
- 既存剤、新規剤の開発、拡販
 - ✓ エフィーダ剤・ディザルタ剤の開発、拡販
 - ✓ 新剤・新技術の早期開発、上市
- 半導体関連分野への事業拡大
 - ✓ BMI類
 - ✓ 高純度COSガス

構造改革

- 塩素化事業の再成長に向けた経営改善
- グループ経営の最適化による基盤強化
- 不採算事業の見直し

- ▶ 「アクシーブ」の市場拡大が続く中、価格影響を乗り越え**今後の収益を確保できる体制**を整備
- ▶ **生産・販売・開発** の3つの軸で**安定的な収益を創出**



【市場】

2022年ジェネリック品の販売開始以降もピロキサスルホン流通量の拡大は継続
2026年度は販売促進の強化を図り、アクシーブ販売数量が増加

【価格】

想定を上回る急激な市場価格の下落
収益性の大幅な低下、棚卸資産評価損を計上

▶ **今後の収益を確保できる体制へ**

安定的な収益の創出

生産

- ✓ 原体製造法の更なる効率化
による**コスト低減**

販売

- ✓ **販売支援の強化**
- ✓ **需要連動型**のビジネスモデルへの転換

開発

- ✓ **新規混合剤開発**によるポートフォリオの充実
- ✓ **高付加価値化**の推進

エフィーダ剤・ディザルタ剤の開発、拡販

日本国内向け

- ✓ 地域ごとの現場ニーズに適した製品を開発、製品ポートフォリオをさらに拡充、**日本国内シェアの拡大**
- ✓ 原体を他社導出し、**収益最大化**を図る

海外向け

- ✓ 韓国向け販売の促進
- ✓ エフィーダは**米国**等にて開発中

▶ **アクシーブに次ぐ当社の成長ドライバーに育成**

新規剤の早期開発・上市

- ✓ 最先端設備を集約した新研究棟を建設中
- ✓ 継続的な新剤の創出

生物科学研究所
安全性評価研究棟

2018年完成

化学研究所 ShIP

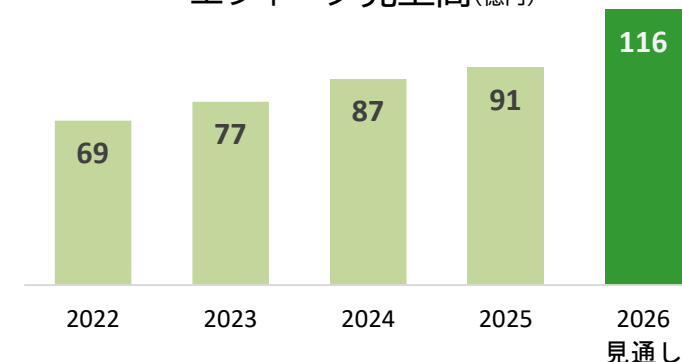
2023年完成

生物科学研究所
農薬研究センター 新研究棟

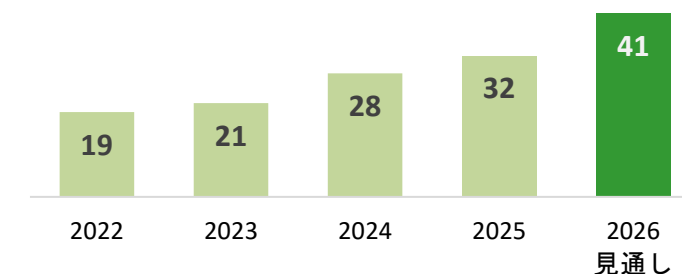
2027年竣工予定

▶ **研究開発の更なるスピードアップによる投資回収の早期化**

エフィーダ売上高(億円)



ディザルタ売上高(億円)

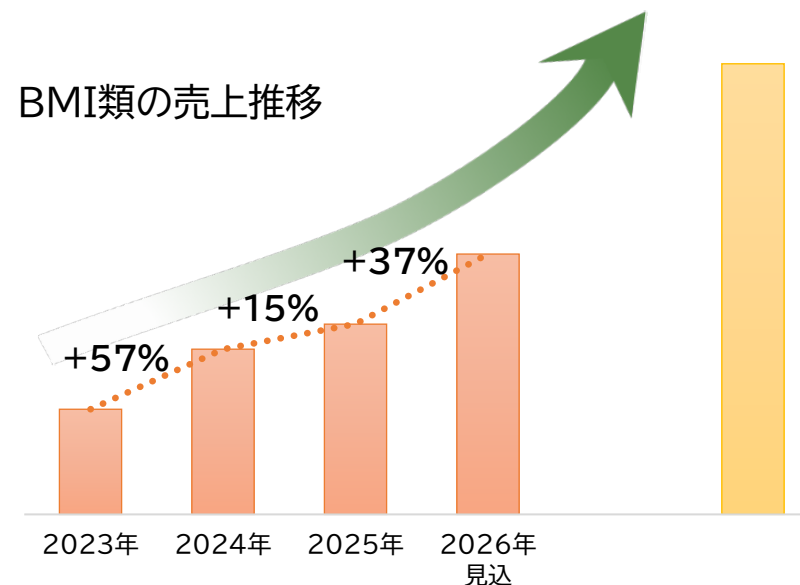


ビスマレイミド（BMI）類

- ✓ 国内におけるBMIモノマー最大手
- ✓ 新プラント本格稼働による**生産体制の強化**、さらなる能力**増強**を検討
 - ▶ 需要をとりこぼさない**強固な生産基盤**を構築
- ✓ 新規顧客、用途の拡大

▶ 需要拡大に対応、高成長市場を取り込む

BMI類の売上推移

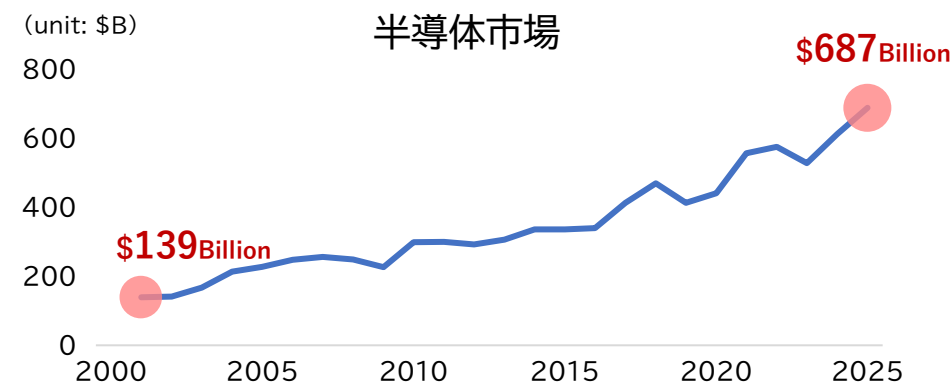


高純度COSガス

- ✓ 当社の農薬中間体 硫化カルボニル（COS）
- ✓ **半導体メモリ（3D NAND）向けエッチングガス**として製品化



▶ 半導体関連分野への展開を加速



引用：『2024年秋季半導体市場予測について』, 世界半導体市場統計（WSTS）

塩素化事業の再成長に向けた経営改善

背景 | 中国・インドなどの化学メーカーの市場参入により競争激化、塩素化事業の事業環境が悪化

施策 | 塩素化事業の**再成長**に向けた**経営改善**を実施

イハラニッケイ化学工業 : 減損損失5億円、構造改革費用 9 億円を計上

Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd. : 固定資産の減損損失を計上（2025年10月期）

グループ経営の最適化による基盤強化

イハラ建成工業(株)

(株)クミカ物流

日本印刷工業(株)

株式交換による連結子会社3社の**完全子会社化**を実施

グループとしての意思決定において更なる迅速化や効率化、柔軟性の向上を図り、**強固なグループ基盤**を構築する

不採算事業の見直し

経営資源を見直し有効活用することで**更なる財務体質の改善**を実行し、グループ全体の**企業価値の最大化**を図る

▶ 強靱な企業体質に向けた変革を実行、グループの持続的成長へ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください <https://ir.kumiai-chem.co.jp/>